令和６年度　多摩市立連光寺小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【読むこと】	イ【書くこと】
【読むこと】叙述に基づいて、どのような内容が書かれているかを把握することができる。	（言葉の特徴や使い方）語句の意味や語句と語句との関係、使い方を理解する力を育てる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・語彙の習得が十分でなく、読み取りが十分でないところがある。ア ・「は」「を」「へ」や拗音などの助詞を文章に正しく使うことの定着が難しい。イ	・本文の中にある言葉の意味について学級全体で丁寧に考えることで、一つ一つの言葉の理解を促す。ア ・自分の思いを書く活動を行い、書いた文章を一緒に見返すことで、助詞の使い方を意識できるようにする。イ	通年 通年	・児童に語彙が増えてきた。また、分からない言葉があったときには、分からないと言えるようになった。そのため、児童同士で教え合ったり、共有したりすることができた。 ・助詞を正しく使えるようになってきたが、まだ間違えてしまうこともある。書く活動の際に、正しい助詞の使い方を意図的に取り上げ、指導を続けていく。
第２学年	・語彙の習得が十分でなく、読み取りが十分でないところがある。 ・叙述に基づいた心情や情景を大まかにとらえることが難しい児童がいる。ア ・助詞や拗音、促音、長音、発音が正確に書けなかったり、カタカナとひらがなの使い分けができなかったりする児童がいる。主語が抜ける文章を書くこともある。イ	・本文の中にある言葉の意味について学級全体で丁寧に考えることで、一つ一つの言葉の理解を促す。 ・一人一人が叙述に基づいて考えた内容を学級全体で共有し、議論することで、文章が表現しようとしていることを読み取れるようにする。ア ・自分の思いや感想を書く活動を行い、書いた文章を一緒に見返すことで、助詞や拗音、促音、長音、発音の使い方を意識できるようにする。イ	通年 通年	・文中の語句の意味について全体で共有しながら学習を進めたことで、自主的に辞書をもってきて調べる児童が増えた。 ・叙述に基づいて考えた内容を全体で共有し、議論しながら学習を進めたことで、文意を納得しながら読み取れるようになってきた。 ・自分の思いや考えを書けるようになってきたが、助詞や拗音、促音、長音、撥音が正確に書けなかったり、カタカナとひらがなの使い分けができなかったりする児童はまだおり、繰り返しの練習が必要で

				ある。
第３学年	・人物の心情、様子などを読み取ることは概ねできるが、長い文章になると要点を捉えたり、その内容を表出したり、自分の言葉でまとめたりすることが難しい。ア ・語句の意味や使い方が分からない言葉が多い。イ	・作文単元では、登場人物の心情や筆者の意図を表す叙述に線を引くなど整理しながら、本文から読み取る活動を取り入れ、自分なりの考えをもたせる。ア ・書くことに抵抗を感じる児童が多いため、下書き段階ではタブレットを活用し、各内容について細分化して児童の苦手意識を下げる。また、日常より辞典を身近に置き、新しい言葉を調べさせ、文章中で使えるようにする。イ	通年 通年	・物語や説明文では、段落のつながりや本文に注目しながら心情の変化の読み取りや、段落ごとの要約をまとめさせる活動を行った。また、タブレット端末の活用が、自身の思考を整理することや協働的な学習を進める際に有効であった。引き続き取り組んでいく。 ・データ入力でのまとめが行えるようになった。個人差もあるが、自筆で書く活動とタブレットへ入力する活動のバランスが大切であり、考慮していく。
第４学年	・人物の心情を読み取り、表現することはできるが、多面的・多角的な視点から考えることができない。ア ・語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方で分からない言葉が多い。イ	・物語単元では、個人での読み取り後、グループや学級での話し合い活動を十分に行う。ア ・漢字や慣用句、語句の意味などを身に付けていくために、ドリルや練習帳と国語辞典や漢字辞典の活用を充実させる。イ	通年 通年	・個人での読み取りを担任が把握し、意図的にグループ構成をしたグループで話し合い活動を行った事で、個人では深めることができなかった視点に気付く児童が増えた。 ・単元の導入部で、意味調べをする時間を設け、語句の使い方や意味に関心をもって取り組む児童が増えた。
第５学年	・叙述から登場人物の心情を読み取ることは概ねできるが、その変化や細かな表現に着目することは難しい。 ア ・語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方で分からない言葉が多い。 イ	・中心人物の心情や、その変化を読み取る活動（心情曲線等）や、文章を要約する活動を多く取り入れる。ア ・調べる活動を通して、語句の知識や使い方を学習する習慣を付ける。イ	通年 通年	・心情を表す言葉や表現に着目させたり、自分に置き換えて想像させたりすることで、登場人物に寄り添った読みができるようになってきた。間接的な表現から想像し読み取ることが今後の課題である。 ・辞書やイッターネット等を活用して、自分で調べることは習慣化してきた。今後はそれを実際に活用する場面を増やしていく。

第６学年	・直接的な表現を通した登場人物の関係性や心情、出来事などの読解はできるが、間接的、比喩的な表現から読み取ることを苦手としている。ア ・語彙が少なく、文章や発言の中で使える表現の幅が狭くなっている。また簡潔な文で表すことが苦手で、必要以上に長い文章になってしまうことが多い。イ	・様々な文章表現に触れさせることと、キーとなる語句や表現を取り上げて読み取ったり、それをもとに話し合ったりする活動を取り入れる。ア ・ICT 機器や国語辞典の活用を通して類語などに触れ、語彙を増やすことと、それらを使って表現する機会を学習の中で多く設定する。イ	通年 通年	・大事な語句や文章に注目させることで、より登場人物の心情に迫ることができるようになった。また直接描かれていない心情にも思い至るようになった。 ・語彙が増えるとともに、文章作成や発表の中で、実践的に活用する力が高まってきた。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　タブレット端末を活用して様々な友達の考え方や視点を共有することで、自分とは違うものの見方があることに気付く。

２年　タブレット端末を活用して様々な友達の考え方や視点を共有することで、自分とは違うものの見方があることに気付き、それらを自分の学びに取り入れようとする。

３年　タブレット端末のアプリを、文章の構成や下書きのメモをする際のツールとして活用する。

４年　自分や友達の考えを共有したり、熟語や漢字を調べてまとめたりする際にタブレット端末を活用する。

５年　タブレット端末を使って、ペア・グループで読み取った内容を伝え合ったり、多面的・多角的な考えに触れたりして、自分の考えを広げる。

６年　タブレット端末を使って、ペアやグループで読み取った内容を伝え合ったり、多面的・多角的な考えに触れたりして、自分の考えを広げる。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　意見交流を中心に読み取りの活動を進めることで、自分たちの発見から内容の理解が進んでいく充実感を感じられるようにする。

２年　１単位時間の学習内容を明確に提示することにより、学習の見通しをもたせると同時に、意見交流を中心に読み取りの活動を進めることで、自分たちの発見から内容の理解が進んでいく充実感を感じられるようにする。

３年　毎時の学習が、既習事項の何と関連しているか確かめる。授業の始めに毎時間のめあてをノートに書かせて意識させると同時に、授業の終わりにはめあてに対する各自の到達具合を文章等で記録させる。

４年　既習事項の中から、毎時の学習に生かせそうなものを探して取り組ませる。また、授業の始めに毎時間のめあてをノートに書かせて意識させると同時に、授業の終わりにはめあてに対する各自の到達具合を文章等で記録させる。

５年　毎時の学習において活用した既習事項が、適切であったか振り返り、次時への取り組みにつなげられるよう助言する。

６年　毎時の学習において活用した既習事項が、適切であったか振り返り、次時への取り組みにつなげられるよう助言する。

令和６年度　多摩市立連光寺小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

算数科

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【思考力・判断力・表現力等】	イ【知識及び技能】
根拠を基にしながら筋道を立てて考え、表現する力を身に付ける。	計算や作図などの手順を理解し、正しく処理できる力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・問題文の内容を具体的に想像することができず、立式につなげることが難しい児童がいる。ア ・学習内容が確実に定着していない児童がいる。イ	・具体物やタイル操作を使って、問題文の場面を整理し、式や言葉に結び付けられるようにしていく。ア ・プリントやドリルを活用し、既習事項の復習を実施する。イ	通年 通年	・繰り返しブロックや図を使って問題場面を整理することで、問題文の内容を読み取り、立式できるようになった。 ・プリントやドリルを活用して既習事項の復習を実施することで、学習内容を定着させることができた。
第２学年	・図や式、記号、言葉などを適切に用いて自分の考えや学習したことなどを表現できる児童が少ない。ア ・既習事項の定着が十分でない児童がいる。イ	・繰り返し、図や式、記号、言葉などを適切に用いて自分の考えを表現する場を多く設ける。ア ・朝学習や家庭学習、個別指導の時間を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、日常生活の中で他教科の中でも話題に出すなど既習事項を意識できるようにする。イ	通年 通年	・立式について説明できる児童が増えたことで、立式に関する理解を進められた。 ・課題設定のステップを細かくしたり、繰り返し復習に取り組んだり、個別指導を行ったりしたことで、基礎基本の定着が進んだ。また、生活科等で長さの単位を活用する様子が見られた。
第３学年	・自分の思考を式や図、表、文章などで表現することの経験が全体的に足りない。ア ・既習事項の理解が確実に定着していない児童がいる。イ	・学習理解の進捗状況に応じて発問を精選しながら思考させる。図や表などを活用して思考を表現できる経験を積ませ、新たな課題に生かすようにさせる。ア ・基礎知識の習熟の時間を授業内で設け、プリントやドリル、ミライシード等を活用し、既習事項の復習を行い、学習内容の理解の定着を図り、技能を伸ばす。イ	通年 朝学習や単元の習熟の時間	・少人数のコースにより発問等、習熟度に応じたアプローチを行った。自身の考えを線分図や数直線から式にする等、図式化しながら思考し、問題解決型の学習が定着しつつある。 ・単元始めに基礎となる既習事項の繰り返しの確認や、習熟度に応じた課題を設定し習熟することで知識や理解、技能の定着を図れた。

第４学年	・自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。ア ・除法、乗法の計算技能に課題がある児童がいる。イ	・ノートやタブレットなどを使用し、自分の考えをまとめる時間を確保し、授業の中で共有する。ア ・既習の基本的な計算を基に考えさせ、繰り返し問題に取り組み、学習内容の定着を図る。イ	通年 通年	・ノートやタブレットを使って、自分の考えを共有したり、説明したりすることができた。 ・AI ドリルや紙の計算ドリルなどを用いて、繰り返し練習することで定着を図った。加えて簡単に解ける工夫を支援に取り入れることでふとな児童も取り組むことができた。
第５学年	・正しく情報を読み取り、根拠を基にしながら筋道を立てて考えることに課題がある。ア ・基本的な計算問題や作図問題の定着に課題がある児童がいる。イ	・目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道立てて考える経験を重ねる。また、数直線に表して立式する習慣を身に付けられるようにする。ア ・朝学習や授業、家庭学習でミライシードやドリル等を活用し、基礎・基本の定着を図る。イ	通年 通年	・既習事項を用いた課題解決を意識して指導してきたことで、根拠を基にしながら筋道を立てて考える力が身に付いてきた。しかし、それを表現する力には、活用する能力と併せて、まだ課題がある。 ・授業最初の復習の時間や ICT 機器を用いた習熟に繰り返し取り組んできたことで、力は付いてきたが、個人差が大きい。習熟の時間を多く確保できるよう図る。
第６学年	・文章題などで、解決に必要な情報を読み取っ たり、数値同士の関係性を捉えたりすることが苦手な児童が多い。ア ・基本的な計算問題や作図問題の定着が十分でない児童がいる。イ	・ICT も適宜活用し、立式だけでなく、その根拠を言葉や図、数直線等で表す機会を設ける。ア ・朝学習や家庭学習、習熟の時間を活用して、基礎・基本の定着を図る。イ	通年 通年	・様々な方法や視点から課題に触れることで、情報を取捨選択して活用する力が高まってきている。 ・習熟については、時間を十分に確保することと、個に応じた教材を用意することで、計算など基礎基本の力は、高まってきた。しかし、個人差が生じる点に関しの手立ては、考える必要がある。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
１年　タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、友達の発表を見たりして学びを深める。 ２年　タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。 ３年　タブレット端末を活用して、自分の考えをまとめたり、発表したりして学びを深める。 ４年　タブレット端末を活用して、自分の考えを整理したり、説明し合ったりして学びを深める。 ５年　タブレット端末を使って互いの考えを共有したり、自分の考えを説明し合ったりして学びを深める。 ６年　自分の考えを小集団や全体で説明させるだけでなく、友達の考えを説明する活動も取り入れる。	１年　意見交流を中心に課題に取り組むことで、自分たちの力で課題を解決できたという充実感を感じられるようにする。 ２年　意見交流を中心に課題に取り組むことで、自分たちの力で課題を解決できたという充実感を感じられるようにする。 ３年　毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で単元末に学習の理解の定着を図る。 ４年　毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で学習の理解の定着を図る。 ５年　めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。 ６年　めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。

令和６年度　多摩市立連光寺小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【思考力、判断力、表現力等】	イ【学びに向かう力、人間性等】
理科の問題解決過程を通して、問題を見いだす力や根拠のある予想や仮説を発想する力、解決の方法を発想する力やより妥当な考えをつくりだす力などの問題解決の力を各学年の重点に沿って育成する。	・連光寺の身近な自然に関心をもち、自然事象と知識を結び付けながら主体的に学習する態度を育てる。 ・科学的事象に関心をもち、「新たな問い」や「新たな気付き」を多くもてる心情を育てる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第３学年	・生命、エネルギー、地球に接し、観察する力はついてきたが、その中から問題を見いだすまでには至っていない。ア ・実験、観察をして理解したことを発展に結び付けるまでには至っていない。イ	・実物に多く触れ、二つ以上の対象物を比べ、共通点や相違点を見いだしながら観察できるように指導していく。ア ・自分たちの生活の中の事象と既習の知識とを意識して結び付けがら学習に取り組めるよう単元末には発展的な学習を取り入れる。イ	通年 通年	・課題を明確にし、分かったことと対比させたり予想と比較したりする学習を中心にして、問題解決的な学習を取り入れていくことで、既習を念頭に入れ、新たな課題に着眼できる児童が増えた。 ・自身の生活や周りの環境などに関わる問題に取り組みながら、身近な問題として捉えて発展的に考えながら知識の定着が図れた。
第４学年	・予想や仮説に根拠を発想できない、述べられない児童が目立つ。　ア ・意欲もって学習に取り組むことができるが、既習の内容や生活経験基に考えることが苦手である。イ	・日常経験と結び付けて予想することを常に指導し、十分な時間を確保する。ア ・ペアやグループの意見交流の時間を設け、さまざまな考えにふれられるようにする。イ	通年 通年	・日常経験と結び付けて予想することを常に指導してきたことで、既習学習を生かして考えたり、根拠のある予想を述べたりすることができる児童が増えた。 ・ペアやグループだけでなく、タブレット端末を効果的に活用して意見交流を行った事で、個々の考えを再考する様子が見られた。
第５学年	・問題を見いだし、予想を立てることはできるが、検証計画を立案することが難しい。ア ・自然の事物・現象に関心や意欲は高いが、それが知識と結びつかず、新たな問いや問題意識をもつところまでには至らないことが多い。イ	・検証計画を立案することができるように、使えそうな実験器具を提示したり、グループや全体で話し合ったりしてから個人で考える時間を設定する。ア ・新たな問いや問題意識をもてるように、考察の場面で視点を与える。新たな問いを見いだ	通年	・単元の初めの実験は全体で確認をしながら検証計画を立て、その経験を生かして以降の検証計画を立てられるように学習を進めるようにしたり、実験器具を提示したりすることで自分の力で検証計画

		した児童を全体で取り上げ、価値付けを行い、結論を出して終わりではなく、次の学習につながるようにしていく。イ		を立てることができる児童が増えた。 ・考察の視点を与えて繰り返し指導したことで、最後まで問題意識をもって学習に取り組んだり、新たな問いをもてたりする児童が増えた。
第６学年	・考察する場面において、何を書いていいのか分からなかったり、どのように考えていいのか分からなかったりする。ア ・学習内容と実際の自然現象や科学的事象を結びつけること、また既習内容と新しい内容関連性を見つけることが難しい。イ ・新たな問いや気付きをもつための知識が不足しているため、何を疑問に思うべきか、どの方向で深掘りすればよいかがわからない場合がある。イ	・書き方のフレームを示しながら、予想と結果の相違から導き出されたことを、考察にまとめていくことを、繰り返し指導する。ア ・学習した内容を生かして実験を行い、実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と関連付けて考えさせる機会を増やす。イ ・既習内容を確認しながら学習を進めるとともに、ディスカッションや情報共有を促進することで、互いの知識や視点を活用して学び合う環境を作る。イ	通年 通年	・身近な言葉や表現から、理科的な用語に置き換えながら学習を重ねたことで、自分の言葉で考えをまとめる力が高まった。 ・横断的な視点で内容を捉える機会を意図的に増やした結果、他教科との関連性の上で学習を進めていく力が付いてきた。 ・疑問や発見をもとに話し合いながら進める中で、多面的な見方や捉え方が身に付いてきた。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

３年　観察したことや実験の結果をｅポートフォリオとして、振り返りや継続的な記録として学習に生かす。
４年　問題に対する仮説や予想を立てたり、考察や発表を行ったりする場面でタブレット端末を活用する。
５年　学習課題について調べた事柄や情報を関連付けてまとめる活動を行う。
６年　結果から考察する場面において、児童同士の交流を多く行い、考えが深まるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

３年　実生活との結び付きや発展的に考えることを意識させながら学習に取り組ませていく。
４年　振り返りを行い、日常生活への適用を考え、今後の学習への意欲を高める。
５年　自分の予想と結果を関連付けて考察させることにより、今後の学習への意欲を高める。
６年　本時で学んだことや、疑問に思ったことを実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と結び付けるようにしていく。

令和６年度　多摩市立連光寺小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

社会科

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【考力、判断力、表現力等】	イ【学びに向かう力、人間性等】
資料を活用したり、調査したことを基にしたりして、自分なりの考えをもち、表現する力を育てる。	社会的事象に関心をもち、自ら進んで調べ活動や表現活動に取り組む力や態度を育てる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第３学年	・地図や写真等の基本的な資料活用能力・表現能力が身に付いていない児童がいる。ア ・自ら学習問題を立てたり、まとめたりすることや、課題に対しての調べ学習に取り組むことへの意欲が低い児童がいる。イ	・地図やグラフ、表に触れる機会を多くもち、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、考えを文章にまとめたり、相手に分かりやすく伝える学習活動を繰り返し行ったりする。ア ・児童が自ら学習問題や、それに対するまとめを立てられるような資料を提示する。地域や身近な社会の様子を具体的に調査・観察する学習活動を充実させ、問題に対して予想を立て、見通しをもって活動に取り組ませるようにする。イ	通年 通年	・見学や地図やグラフ、表などの読み取りの活動を多く取り入れ、資料の扱いに慣れながら、社会科見学新聞等に学習活動の事実と考えをまとめてまとめることができた。 ・問題解決型の学習取り入れながら、適宜タブレット端末を活用することで、視覚的に分かりやすい資料を提示したり調査活動をしたりする中、意欲的に取り組む児童が多くなった。
第４学年	・資料を丁寧に読み取ったり、多くの情報を整理して把握したりすることを苦手とする児童が多い。ア ・社会科に関する用語や出来事に対して難しさを感じ、調べることに意欲をもつことができない児童がいる。イ	・地図やグラフ、表に触れる機会を多く設定し、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、話し合い活動を通して、考えをまとめる学習活動を繰り返し行う。ア ・様々な意見に触れることができるように、調べたことをペアやグループで交流する時間を確保し、意欲的に取り組ませるようにする。イ	通年 通年	・地図やグラフ、表などの読み取りの活動を多く取り入れ、話し合い活動の中で比較・関連させて考えることで、資料の読み取りに意欲的になる児童が増えた。 ・ペアやグループで交流する時間を意図的に多く設定することで、様々な意見に触れる機会が増え、調べることに意欲的に取り組む児童が多くなった。
第５学年	・複数の資料から読み取ったことを関連付けたり、考えたりすることが苦手な児童がいる。　ア ・考えたことを言葉や図で整理したり、相手に根拠となる資料を用いて伝えたりすること	・写真や図表、地図に触れる機会を多く設定し、資料から分かることを比較・関連付けて読み取らせ、考えをノート等にまとめられるよう指導する。　ア ・考えを文章に整理してまとめたり、根拠を基	通年 通年	・資料から分かることをICT機器を用いて、分類しながら整理し確認する学習を重ねることで、資料同士の関係を捉えたり、比較したりすることができるようになって

	が苦手な児童がいる。 イ	に相手に分かりやすく伝えたりする学習活動を繰り返し行う。 イ		きた。そこから自分の考えに繋げていくことも出来るようになってきたが、十分ではない。今後の課題である。 ・自分の考えを簡単な文章にする力は付いてきた。しかし、上記と同様に、考えをまとめていく上で、適切な資料を選んだり活用したりすることについては、更なる取り組みが必要だと考える。
第６学年	・統計や年表などの資料から、必要な情報を適切に読み取って、まとめることが苦手な児童がいる。 ア ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、調べたことや考えたことを表現したりすることに意欲をもつことができない児童がいる。 イ	・統計や年表、地図帳などの資料に触れる機会を多く設定し、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、考えをノートにまとめたり、話し合ったりする活動を繰り返し取り入れる。 ア ・調べたことや学習したことを結びつけ、そこから自分が関心をもったことや考えたことを新聞にまとめたり、意見交流をしたりする活動を繰り返し行う。 イ	通年 通年	・必要な情報を適切に抽出し、そこから読み取ったことをもとに、自分の考えをまとめることができるようになった。 ・毎単元で新聞等にまとめる活動を取り入れたことで、調べたことを表現するスキルが身に付いた。また、それを用いて意見を交流する中で、歴史や文化に対してより深い関心を持ち、積極的に学習に取り組むようになった。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

３年　写真や動画などの課題に沿った資料配布を効果的に行い、児童が資料を活用して学びを深めることができるようにする。

４年　学習に必要な資料を適切に選ぶ力や、情報を読み取る力を高めるためにタブレット端末を活用する。

５年　タブレット端末を使用し、社会的事象の特色や意味についての考えを、ペアやグループなどで共有する活動を増やす。

６年　社会的事象の特色や意味について、話し合い活動やタブレット端末を使った交流活動を通して、多面的・多角的に捉えられるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

３年　身近な事柄に対する知識や理解を確かめ、次回への意欲を高める。

４年　３年生での既習事項や生活体験での知見から類推したり予想したりして、自分の学習の進め方を考えさせる。また、毎時間の学習の終末に、その時間に学習したことの振り返りや疑問点などを簡潔に明記させ、次時の学習に生かしていく。

５年　学習課題の明示と、その解決のために探究活動の時間を設定する。

６年　自分で学習課題を設定し、その解決に向けた探究活動の時間を確保する。

令和６年度　多摩市立連光寺小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

生活科

生活科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　【思考力、判断力、表現力等の基礎】	イ　【学びに向かう力・人間性等】
具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考える力、表現する力を育てる。	具体的な活動や体験を通し、児童自身が得た思いや願いに基づいて、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとする態度を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・身近な事象について様々なことを発見することはできているが、それらと自分自身との関わりについての気付きは、当然ながらまだ弱い。ア ・目の前の自然物や体験について発見した事柄をもとに、より詳しく知ろうとしたり、工夫しようとしたりすることに対して、意欲がもてない児童がいる。イ	・児童が気付いた事柄について、児童にとって分かりやすく価値づけると同時に、それらが児童の生活に関わっている事柄をできるだけ紹介し、興味をもてるように働きかける。ア ・目の前の自然物や体験について発見した事柄を分かりやすく価値づけしたり、他の児童が働きかけている様子を価値づけしつつ紹介したりして、意欲を高められるように働きかける。イ	通年 通年	・学習したことを自分の生活と結び付け、疑問に思ったことをさらに調べたり、自然事象について考えたりする姿が見られるようになった。 ・発見したことを友達と話し合ったり、他の児童から聞いたことを自分の活動に取り入れたりする姿が多く見られるようになった。
第２学年	・社会及び自然について、自分とのかかわりでとらえる意識が育ちつつあるが、十分ではない児童がいる。ア ・具体的な体験活動から思いや願いをもてるようになってきているが、思いや願いをもつことが難しい児童がいる。イ	・児童にとって身近な教材を繰り返し取り上げ、それについて感じたことや考えたことを共有する場を設けることで、自分とのかかわりを意識できるようにする。ア ・体験的な活動を経験するごとに、情報共有の場を設け、そこで発せられる発言をお互いに聞くことで、自分の思いを整理できようにする。イ	通年 通年	・身近な人からの情報を繰り返し共有することで「自分のしたいこと」を決めることができた。 ・学習を通して分かったことや調べたことをペープサートや紙芝居、劇などの表現方法を自分で選んで表現することができるようになった。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
１年　タブレット端末を活用して、発見したことの記録をとり、それ	１年　発見したことをクラス全体で共有し、その一つ一つを具体的に

２年	らを基に自分の考えを表現したり、発表したりして伝わりやすい表現方法を学ぼうとする。 タブレット端末を利用し、自らの発見や思いを伝えあうことで、対話的な学びを深めることができるようにする。	２年	分かりやすく価値づけすることで、学びの視点を提示する。 見通しをもって活動したり、次回につなげたりするために、振り返りを行い、活動内容を全体で共有する。